



後方より見た文庫蔵 (左) と米蔵 (右)

【文庫蔵】 明治35年(1902年)上棟。  
土蔵造2階建 鉄板葺

文書などを収める置屋根形式の土蔵で、渡り廊下で和館と接続する。腰壁に石積風の目地を切り、黒漆喰仕上げの軒蛇腹に渦紋の飾りをつける。

【米蔵】 大正2年(1913)上棟。  
土蔵造1階建 鉄板葺

文庫蔵と同様に置屋根形式の土蔵で、蔵前をつけ、外壁は漆喰で仕上げる。  
文庫蔵より造りは簡素である。

国指定 重要文化財有形文化財 (建造物)

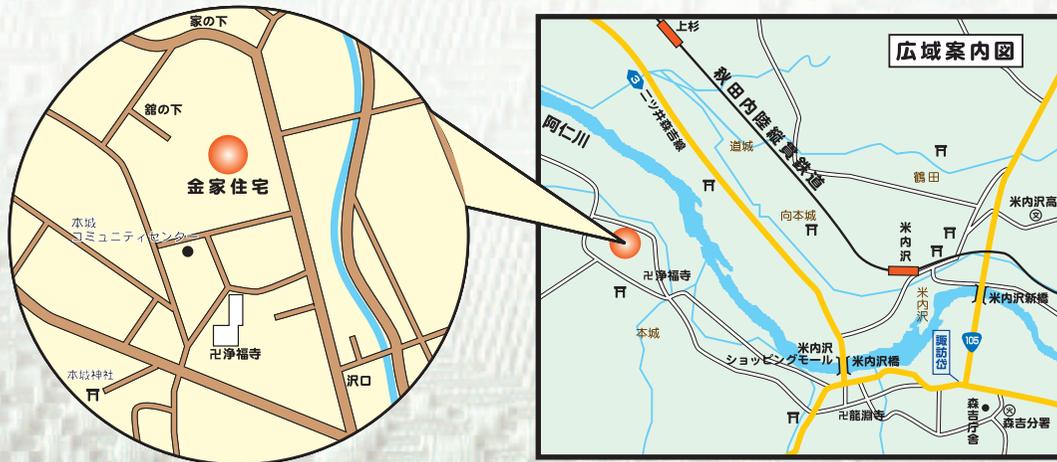
# 金家住宅



洋館正面外観

## お願い

- 指定された金家住宅のうち、和館(市管理)を除く建物は現在も住家として使用されているため、一般公開されておりません。
- お住まいの方のプライバシー保護のため、敷地内(門より内)への立ち入りについてはご遠慮ください。
- 市管理の和館も常時一般公開しておりませんが、定期的な公開を予定しています。公開の際は、市広報・ホームページなどを通じて事前にお知らせします。



## お問い合わせ

北秋田市教育委員会 生涯学習課

0186 (62) 6618  
月曜～金曜 (8時30分～17時15分)

北秋田市教育委員会 生涯学習課

国指定 重要文化財有形文化財 (建造物)

# 金家住宅

所在地 北秋田市本城字館の下 192 番地  
指定年月日 平成 20 年 12 月 2 日  
指 定 洋館・和館・文庫蔵・米蔵・土地 (表門・石垣を含む)



洋館 1 階サンルーム

【洋館】 昭和 3 年 (1928) 竣工。木造 2 階建銅板葺  
印象的な急勾配の大屋根に切妻破風と正面に突き出た屋根窓 (ドーマー・ウィンドウ) をつけ、1 階を下見板張、2 階をドイツ壁、妻壁をハーフティンバーとする。1 階西側と 2 階南側にはサンルームが設けられている。  
終戦後の数年間は、大野岱女子農業学校 (現・県立米内沢高等学校) の女子寮として使用された。  
※ドイツ壁：モルタルを吹き付け、粗く仕上げた外壁の様式。  
※ハーフティンバー：柱や梁を外に見せ、漆喰やレンガで仕上げた外壁の様式。



洋館壁面のデザイン



洋館漆喰塗天井の装飾

【和館】 伝昭和 3 年 (1928) 竣工。木造 2 階建鉄板葺 (元は銅板葺)  
洋館とは対照的なむくりをつけた入母屋屋根で、2 階建の廊下を付属し上下階で洋館と繋ぐ。当家の山林から調達した良質な秋田杉を用い、「金」の字を模した欄間の透彫や座敷飾りなど、細部まで丁寧につくられている。2 階の縁は極力柱を省き、座敷から周囲の田園を広く望む。庇縁の八間通しの軒桁 (杉丸太) は圧巻である。  
昭和 42 年に旧森吉町に寄贈され、近年まで地区の公民館として活用された。

金家は、戦前は阿仁地方の三大旦那と呼ばれた有数の地主として土地経営を行うかたわら、農村の青年教育に尽力するなど地域の発展に貢献した。  
金家住宅洋館、旧金家住宅和館は金家 9 代目当主金逸郎によって建設された。  
木材は全て持ち山から伐採したものをを用い、蒸材・乾燥を施し良質な材料に仕上げた。現在においても狂いはほとんどみられず、当時の技術の確かさを感じさせる。  
金家住宅は、好対照をなす洋館と和館が極めて良好に保存されており、東北地方で数少ない大型の和洋並立住宅として貴重であり、また地方における近代住宅の展開を示す建造物のひとつとしても歴史的価値が高い。近代地主の屋敷構えを伝える文庫蔵、米蔵、土地も併せて指定となり、保存を計っている。

和館 2 階大広間



和館 2 階大広間書院

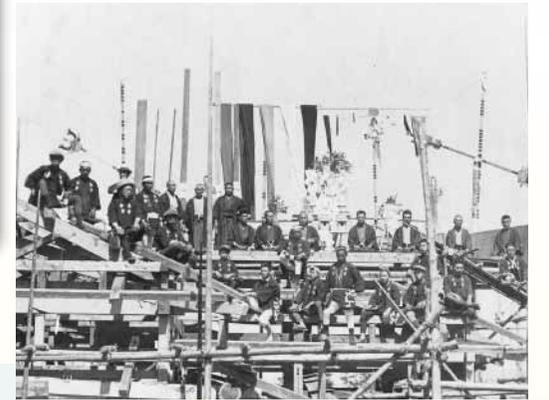


和館 2 階入側縁



入側庇天井と八間通しの軒桁丸太

欄間の「金」の字の意匠



和館上棟式の様子



和館正面外観